

Title	京大東アジアセンターニュースレター 第374号
Author(s)	
Citation	京大東アジアセンターニュースレター (2011), 374
Issue Date	2011-06-27
URL	http://hdl.handle.net/2433/141938
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

目次

- 東アジアセンター国際シンポジウムのご案内
- 中国自動車シンポジウムのご案内
- 「中国経済研究会」のお知らせ
- ブラジルと富士康
- 日中死生観比較 その1— 徐福と姥捨て —
- 【中国経済最新統計】

東アジアセンター・国際シンポジウム

主催：京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター・国際シンポジウム
北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE-Net）・第6回フォーラム
共催：京都大学・京大東アジアセンター協力会

激動の東アジア情勢と地域経済協力 —TPP か東アジア共同体か、東日本大震災からの復興に向けて—

時 間： 7 月 11 日(月) 14:00~18:30

会 場：京都大学吉田キャンパス構内時計台 2 階 国際交流ホールⅡ・Ⅲ

開会挨拶：14:00~14:15 (約 15 分)

吉川潔（京都大学理事・副学長）

谷口誠（北東アジア研究交流ネットワーク代表幹事）

第 1 部：基調講演 14:15~15:45 (約 90 分)

講演者：寺島実郎（三井物産戦略研究所会長・

（財）日本総合研究所理事長・多摩大学学長）

「大震災後の日本—アジアダイナミズムを視界に入れて」

講演者：李光輝（中国商務部国際貿易研究院アジア研究所所長）

「北東アジア地域経済協力の強化と各国の経済発展の促進」

講演者：李洙勲（韓国 NAISKOREA 共同代表・

前大統領諮問東北亜時代委員会委員長・慶南大学教授）

「東北アジア地域協力と北朝鮮問題」

（休憩 10 分）

第 2 部：パネルディスカッション 15:55~17:10 (約 75 分)

1. 問題提起

報告 1：谷口誠（北東アジア研究交流ネットワーク代表幹事・

元国連大使・前岩手県立大学学長）

「米国の TPP 戦略と東アジア共同体」

報告 2 : 木下俊彦 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科客員教授)

「T P P 構想と日中韓 E P A について」

報告 3 : 叶芳和 (元国民経済研究協会理事長)

「TPP か日中韓 FTA かー日本の成長戦略の観点からー」

報告 4 : 玉佑錫(韓国仁川大学東北亜経済通商大学校副教授)

「東アジア地域共同体の動因:EU 経験の意味」(通訳込)

報告 5 : 岡田憲夫 (京都大学防災研究所教授)

「グローバル社会の総合防災戦略と東アジア地域の連携」

報告 6 : 植田和弘 (京都大学大学院経済学経済科教授)

「震災復興と東アジアの持続可能な発展」

司会 : 吉田 進 (NEASE-Net 副代表幹事 ERINA 名誉理事長)

(休憩 5 分)

2. 総合セッション 17:15~18:15 (約 60 分)

日本側パネラー 5 名

総括 : 劉徳強 (京都大学東アジアセンター長) 18:15~18:25

閉会挨拶 : 森瀬正博 (東アジアセンター協力会会長) 18:25~18:30

(シンポジウム終了後、18:45 より懇親会が予定されています。会議関係者及び京大東アジアセンター協力会
会員、学生は無料、その他の方は会費 2000 円となります。)

申 込 書

シンポジウム／フォーラム参加ご希望の方は 7 月 5 日 (火) までに下記の項目にご記入の上、京大東アジア経済研究セン
ター協力会事務局・小林拓磨までお申し込みください。すでに参加の申し込みをされた方は再度申し込む必要はございませ
ん。なお、会場の制約から、先着 **120 名** までとさせていただきます。

申込先 : email: shkyoryokukai@yahoo.co.jp / Fax: 075-753-3469

■氏名 : _____ ■所属 : _____

■Tel : _____ ■email : _____

■懇親会 : ①参加 ②不参加

■参加者区分 : ①協力会個人会員 ②協力会法人会員 ③会議関係者 ④学生 ⑤その他

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学ものづくり経営研究センター

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター協力会

京都大学経済学部同窓会東京支部

中国自動車シンポジウム

中国自動車市場のボリュームゾーンを探る

——小型車・低価格車セグメントにおける代替・競争構造——

2011年7月 23 日(土) 13 時
京都大学東京オフィス (品川インターシティA 棟 27 階)

総司会 京都大学経済学部特任教授/京都大学東アジア経済研究センター協会の理事/京都大学経済学部同窓会東京支部常任理事 宇野 輝

13:00-13:20

挨拶 京都大学大学院東アジア経済研究センター長 劉 徳強
東京大学ものづくり経営研究センター ディレクター 新宅 純二郎

13:20-14:20

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋 新興国における小型車・低価格車セグメントの構造
——全体テーマと報告構成——

14:20-15:00

エイムス ディレクター 菊地 捷 低速電気自動車の社会的役割と市場の可能性
休息

15:20-16:00

東京大学社会科学研究所 教授 田島 俊雄 「汽車下郷」と中国的農用車・微型車の命運
——日本の「軽自動車」の再検討——

16:00-16:30

inforBRIDGE 社長 繁田 奈歩 小型車中心のインド自動車市場
——タタ・ナノの今後を探る——

16:30-16:35

閉会

17:00-18:30

懇親会
司会 京都大学東アジア経済研究センター協会の理事/京都大学経済学部同窓会東京支部常任理事 河毛正志
開会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター協会の理事/京都大学経済学部同窓会東京支部常任理事 坂本典之
閉会挨拶 京都大学経済学部特任教授/京都大学東アジア経済研究センター協会の理事/京都大学経済学部同窓会東京支部常任理事 宇野輝

●参加希望者は塩地(shioji@econ.kyoto-u.ac.jp)まで御連絡ください。先着 50 名様となります。なお懇親会は参加費 2000 円です(協会の会費無料)。

「中国経済研究会」のお知らせ

2011 年度第 4 回(通算第 20 回)の中国経済研究会を下記の内容で開催することになりました。多くの方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2011 年 7 月 12 日(火) 16:30-18:00 (注意:日程変更)
場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館 3 階第 3 教室
報告者： 稲田光朗(京都大学大学院経済学研究科博士後期課程)・
手島健介(メキシコ自治工科大学 assistant professor)と共著
テーマ： 中国における FDI の産業成長に与える影響
——外資参入規制変化を事例に——

*報告者から一言:

「対中投資の規制リスト「外商投資産業指導目録」の分析をしています。中国における企業実務に携わっておられる方々にご参加賜り、ご教示頂きます事を切に希望しております。」

注:本研究会は原則として授業期間中の毎月第 3 火曜日に行います。2011 年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月19日（火）、5月17日（火）、6月21日（火）、7月12日（火）

後期：10月18日（火）、11月15日（火）、12月20日（火）、1月17日（火）

（この件に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）

ブラジルと富士康

21. JUNE. 11

中小企業家同友会上海倶楽部代表
東アジアセンター外部研究員（協力会理事）
小島正憲

BRICs の筆頭にあげられるブラジルに、富士康が120億ドル（約1兆円）規模の投資を行うと発表した。
富士康に果たして勝算はあるのか。なぜブラジルなのか。私はその回答を求めるため、ブラジルに足を踏み入れた。
そしてそこで私が見たものは、意外にも国際金融資本の「バブル転がし」の実態であった。



1. ブラジル豆知識。

- ・面積: 851万km² (世界第5位、日本の22.5倍)
- ・首都: ブラジリア (連邦直轄区)
- ・言語: ポルトガル語
- ・宗教: 主にキリスト教 (カトリック)
- ・人口: 1億9073万人 (2010年、都市部の人口は84%)
- ・非識字率: 9.7% (2009年)
- ・政体: 連邦共和制 議会制度: 2院政
- ・元首: ジウマ・ヴァーナ・ルセフ大統領 (2011年1月就任)
- ・実質 GDP 成長率: 7.5% (2010年)
- ・1人当たり GDP: 1万813.9US\$ (2010年)

2. 富士康豆知識。

- ・富士康 (フォックスコン) は、台湾の企業＝鴻海精密工業有限公司のブランド名。
富士康は、電子機器の生産を請け負う受託生産では世界で最大。
 - ・1974年、台湾で郭台銘氏が鴻海塑料有限公司を30万元で創立。その後、日本から製造設備などを購入し拡大。
 - ・1982年、社名を鴻海精密工業有限公司に変更し、1600万元を増資。日本や米国から新設備を導入。
 - ・1988年、中国の深圳に進出、従業員数1000人。売り上げ10億円突破。台湾で上場。昆山、天津などに工場拡大。
 - ・その後、短時日で富士康は世界でも有数の IT 製造企業に成長。深圳の工場は従業員数40万人を越える。
 - ・2005年、ブラジルに進出。現在、ブラジル国内に5工場を持ち、従業員総数は4800人。
 - ・2010年、富士康の深圳工場で自殺者が相次ぎ、マスコミなどで批判を受けたので、深圳工場を縮小し、中国の内陸部の武漢、鄭州、成都などに工場移動。規模を100万人に拡大予定。
 - ・2011年4月、サンパウロ州 JUNDIAI 市の工場に、生産ライン拡大のため120億ドル（約1兆円）の増資決定と発表。
- ※中国と台湾の両国で、富士康の「奇跡の成功物語」についての書籍が出版されている。今年中に抄訳し紹介したいと考えている。

3. ブラジルは純債務国であり、インフォーマル経済が隆盛な国であった。

①ブラジルの国家資産負債残高表は大赤字。

6月初めに、読者各位に「中国の“外貨準備高3兆ドル突破”への疑問」と題した小論を送信したところ、すぐに国際金融の専門家から、「小島さんは外貨準備と国際資産負債残高表を混同しているのではないか」とのご批判をいただいた。たしかに指摘通りであったので、私はこの課題を解決すべく研究を続けていた。このような問題意識を抱えながらの今回のブラジル調査旅行は、ブラジルの国家経済を分析するに当たって、私にきわめて有益であった。ブラジルを国際資産負債残高の視点から分析すると、明確にその国家像が見えてきたからである。私にはブラジルは一般に言われているような成長著しい純債権国ではなくて、まだ純債務国であり、「砂上の楼閣」であるということがよくわかった。以下にその根拠を示す。中国経済も同様に分析することができるので、それは稿を改めて言及する予定である。

以下に記してある表のAは一般企業の貸借対照表フォームである。それを国家に準用するとB、つまり国際資産負債残高表となる。Cは某日系ブラジル大銀行の頭取提供のブラジルの説明資料の最初のページである。Dは鈴木孝憲氏が作成したブラジルの対外資産負債総合ポジション表である。某日系大銀行の頭取は、このC表を示しながら、我々にブラジルは純債権国であると主張した。鈴木氏は、D表でブラジルは現在約6000億ドルの対外負債を抱えていると分析している。つまり頭取と鈴木氏の主張は正反対である。私は鈴木氏の主張が正しいと断言する。それ以上に、鈴木氏の主張でもまだ追及不足の部分があり、ブラジルの債務額はもっと多くなると考えている。国家負債の部分に、貿易黒字の外資分、外資配当未処理分、外資保有固定資産の時価評価分などが欠落しているからである。いずれにせよ、某大銀行の頭取がブラジルを純債権国として主張することは明らかに誤りであり、それを謳い文句にして、ブラジルに投資を誘う行為は詐欺に等しい。ブラジルを投資適格国と評価しているムーディーズなどの格付け会社も同罪である。

A. 一般企業の貸借対照表

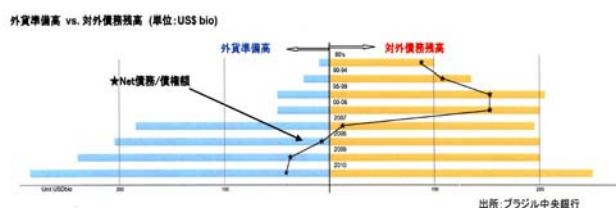
資産の部	負債の部
<流動資産>	<流動負債>
現金および預金	買掛金
売掛金	短期借入金
在庫	未払い金
前払い金	預かり金
その他	その他
<固定資産>	<固定負債>
建物	長期借入金
設備	その他
土地	
出資金	純資産の部
各種積立金	資本金
その他	損益

B. 国際資産負債残高表

資産の部	負債の部
<流動資産>	<流動負債>
外貨準備	短期流入資金
対外直接投資	証券投資
対外証券投資	貿易黒字外資分
その他	その他
<固定資産>	<固定負債>
対外債権	対外債務
外資持ち分の評価損	外資直接投資
その他	外資持ち分の評価益
	外資配当未処分金
	<純資産の部>
	純損益

C. 対外債務問題は解消、純債権国へ

＞外部格付は投資適格水準
S&P:BBB-
Moody's:Baa3



D. ブラジルの対外資産・負債総合ポジション

《2009年実績》 ※鈴木孝憲著「2020年のブラジル経済」から引用

単位: 100万 US\$

対外資産の部	対外負債の部
ブラジルの対外直接投資	外資直接投資
対外証券投資	外資の証券投資
デリバティブ	デリバティブ
その他の投資	その他の負債
外貨準備	
合計	
総合ポジション	

②ブラジルはインフォーマル経済が隆盛。

和田昌親氏はその著書「ブラジルの流儀」(中公新書)の中で、現地の経済研究所発表として、「ブラジルのアングラ経済の年間規模は5,780億レアル(3,285US\$)で、GDPの18.4%に達した。この規模はアルジェンチンの経済規模に匹敵するという」、あるいは現地マスメディア報道として、「世界銀行はブラジル企業の3社に1社、労働者の6割が税逃れをしているとし、その結果 GDPの40%がアングラ経済だと指摘した。大企業がほとんど納税感覚のない露天商を上手く使って、脱税の連携プレーをしているケースも多いという」と書いている。今回私は、その実態の一端を目にすることができた。

ブラジルの誇る観光地の「イグアスの滝」の近くで、ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの3か国が国境を接している。ブラジルとアルゼンチンの間を流れるイグアス川には「友情の橋」が、ブラジルとパラグアイの間を流れるパラナイバ川には「友愛の橋」が、それぞれ架かっている。ガイドの話によれば、その「友愛の橋」を、毎日1万人を越えるブラジル人が渡って、パラグアイ側のエステ市に「買い出し」に行っているという。

私はすぐにその現場に行ってみた。たしかに「友愛の橋」付近の、歩道は大きな袋を担いだたくさんの人でごったがえしており、車道は荷物を満載したワゴン車やバスなどで大渋滞となっていた。エステ市に渡ってみると、そこには5000以上の店が軒を連ねており、一大マーケットが出来上がっていた。それは韓国の東大門市場や中国の義烏市とよく似ていた。ありとあらゆる物が売られていたが、中国製が大半を占めており、そのほとんどが米ドルで売買されていた。

それらの物品は、ブラジルの港からスルーでパラグアイのエステ市へ渡り、市場に並べられているのだという。パラグアイは無関税なので、高い関税が



《パラグアイ・エステ市の市場の一部》

課せられているブラジル国内より、エステ市の市場で売られているものは、かなり安い。そこでブラジル人の担ぎ屋さんがエステ市でたくさんの物品を仕入れ、「友愛の橋」を渡って帰るとき、若干の袖の下を払う代わりに、関税を払わずいわば密輸でブラジル国内に運んでいるのである。このインフォーマル経済(アングラ経済)の実態は、ブラジルの統計数値にはいっさい現れてこない。

4. ブラジル今昔→東山牧場とカンピーナス市のシリコンバレー。

①東山牧場。

私はまずサンパウロ市から120km離れたカンピーナス市にある東山牧場を訪ねた。東山牧場とは、1927年に三菱財閥の創始者岩崎弥太郎の長男久弥が、3700ヘクタールの地を買い求め、その地に弥太郎の雅号の「東山」を付け、農場経営を始めた場所である。その後、第2次大戦中に、敵国財産としてブラジル政府に接收された時期もあったが、現在では弥太郎の弟弥之助のひ孫に当たる岩崎透氏が社長となり、総面積約900ヘクタールの農場を経営している。コーヒーの木が120万本近く植えられ、他にトマト栽培などが手がけられている。



《 東山牧場のゲート前 》

ブラジルには1908年に、日本からの移民が開始されている。貧しい農家に生まれ、しかも跡取りになれない男たちが、「さあ行かう 一家をあげて南米へ」という謳い文句に誘われてブラジルに渡ったのである。移民した日本人たちを待っていたのは、奴隷同然の苦しい生活であったという。それでも日系移民はその苦境を乗り越え、ブラジルの地に土着し、今では日系ブラジル人は150万人を越えるようになっている。そのような日系移民の様子は、2005年にNHKで放映された「ハルとナツ 届かなかった手紙」にも詳しく描かれている。この東山牧場はその撮影現場になっており、現在でもその撮影当時の家屋や備品が残されており、それを通じて往時の様子を偲ぶことができるようになっている。またそこには19世紀の奴隷小屋なども残されている。私はそれを見ながら、できるだけ早い機会に満州移民とブラジル移民を比較検討してみたいと思った。

社長の岩崎透氏自らが懇切丁寧にそれらを案内してくださり、最後に農場の一番高い場所にある展望台「一心亭」で四周を見回しながら、農場経営の現状などについての話をしてくださった。そしてビルが林立するカンピーナス市の中心部を指さしながら、「この農場のすぐ近くまで IT 産業の工場が進出してきている。ワーカーの給与が日増しに高くなってきており、農場経営も機械化せざるを得なくなってきた」と説明された。なお農場の視察後、東山牧場の特設食堂で、名物のシュラスコ料理をご馳走していただいた。それは和風の味付けにしてあり、とても美味しかった。



《 東山牧場からカンピーナス市のシリコンバレーを臨む 》

②カンピーナス市はブラジルのシリコンバレー。

現在、カンピーナス市には多くの IT 産業の工場が操業中である。韓国のサムソン、中国の華為や連想など、大手の工場も進出している。今やブラジルはパソコン販売台数世界第3位も市場になりつつあるので、それを狙って、世界中の IT 企業がこの地が集まってきている。ブラジル政府はこの地を、「ブラジルのシリコンバレー」にする予定であるという。ただし富士康はこの地には進出しないうである。

5. ブラジル経済の歴史的推移と内需活性化の真相。

①歴史的推移と内需活性化の真相。

多くのエコノミストが、「ブラジルにはビジネス・チャンスがあふれている。解決すべき問題はまだまだいろいろあるが、今後10年、2020年に向けてのブラジル経済の成長は間違いないだろう」(「2020年のブラジル経済」 鈴木孝憲著)と予測している。また2014年のサッカーワールドカップ、2016年の夏期五輪のブラジル開催が決まっており、ブラジル人自身も高度経済成長の夢に酔っている。しかし私はそのようには考えない。簡潔に言えば、「ブラジルはBRICsとおだてられたことにより、外資が流入し、経済が大きく変貌した。またちょうドルーラ大統領の貧困層へのバラマキ政策によって内需が拡大した」ということであり、「ブラジルは自力更生で現在を築きあげたわけではなく、外資依存の結果が現在の姿である」と考える。その結果、外資は気紛れであるから、ある時点でいっせいに流出し国家デフォルトになる可能性もあるし、バラマキ政治の行く末は増税であり、これまた経済破綻に陥る可能性が大であるからである。私には14年前の東南アジア通貨危機のとき、国家デフォルトに陥った国が短時日の間に、自力更生のみで、世界経済を牽引するような立派な国になるとはどうしても思えない。ブラジルが再生したといわれる経過を見れば、それが自力更生ではなく、外資依存であることがよくわかる。鈴木孝憲氏の「2020年のブラジル経済」から、その説を引用して以下に記しておく。

- ・ブラジルは1980年代から1990年代にかけての大不況「失われた10年」が有名になりすぎて成長期の活況が忘れ去られているが、それ以前のブラジルはすごかった。他のBRICs諸国に比べ、自由主義工業国としての歴史、経験、実績が豊富だ。本来なら、「新興国」ではなく「再興国」と呼ぶべきだろう。
- ・1997年のアジア全体の連鎖的通貨危機をきっかけに、ブラジルからも資金が流出し、99年のブラジルはまたも通貨危機に見舞われた。
- ・21世紀に入り、ブラジルは急成長するBRICsの一国とおだてられ、うまく風に乗った。そして05年12月にIMF債務を全額繰り上げ返済、06年4月にはプレイディ債を前倒し償還し、「重債務国」の汚名を返上した。
- ・政策金利を高く設定し、外資導入をしやすくした面もある。先進諸国の超低金利で行き場を失ったヘッジファンドの資金が、高金利に狙いを定めて流入してくる。ブラジルへの短期資金の流入が止まらないのはこうした理由が大きい。
- ・こんな動きの激しい経済の中で、国民生活が向上しているのはなぜか。個人レベルでは、ルーラ政権の貧困層支援策によって全国民の1/3の所得が増えたともいわれる。月賦の期間はどんどん長期化し、金利はかつてに比べると低くなり、ものが買いやすくなっていることは確かである。国民の収入が増えれば個人消費は拡大する。輸入品はレアル高で値段が下がり、庶民に手の届く存在になった。

②富士康はブラジル内需を狙う。

富士康はすでにブラジル国内に5工場を展開中、その中ではサンパウロ州内のJUNDIAI市の工場が最大で3200名の従業員を抱えている。工場ではすでにHPとソニーの製品の生産ラインを持っており、ここにアップルのiPAD製造専用ラインを作る予定、今年の11月には生産を開始するという。富士康はこの工場で生産した製品を、成長著しいブラジルの内需市場に売り込む予定。ブラジルは輸入関税が高いため、中国で生産した製品をブラジルに持ち込み販売した場合、iPADの小売価格は860ドルになる(ちなみに米国では400ドル)。富士康は今回の増資は、この高い輸入関税を回避するのが目的であると説明している。なお、近年の中国の人民元高や人件費高、スト多発や電力不足を嫌っての工場拡大でもあるようだ。

しかしブラジルの内情を詳細かつ冷静に検討した場合、内需が好調に見えるのはルーラ政権のバラマキ政策の結果であり、むしろ人件費も上昇気味であり、内需市場もバブル傾向が強く、増税も避けられず、経済の先行きには不安要素が多い。私は必ずしも富士康の予測通り、この内需目当ての事業がうまく展開するとは限らないと考えている。バブル崩壊と同時に、富士康もまた金融資本の犠牲者になるかもしれない。1兆円の投資はあまりにも規模が大きく、回収するにはかなりの年月がかかり、その前にバブル経済が崩壊するのではないかと思うからである。なお、現在、富士康とブラジル政府は、誘致の優遇措置などの特例を協議中であるといわれている。

6. 世界は金融資本に操られている。

「安値で買って、高値で売り抜ける」、これが商売の常道である。これをグローバリズムという名前の国際ビジネスに適用すると、次のようなる。まず仕掛け人が、経済の低調な国の不動産などを安値で買い漁っておき、その後、その国に呼び水として見せ金を投じ、ニセ情報を流し、経済が上昇機運にあるように見せかけ、より多くの外資を誘引し、バブル経済を演出し、崩壊前に仕掛け人は高値で売り抜け、なにくわぬ顔で静かに退場する。この仕掛け人が国際金融資本であり、某日系大銀行もその一味(手先)であると考ええる。

BRICsという表現は、2003年に米国証券会社ゴールドマン・サックスの調査マンが初めて報告書に使った言葉だという。ムーディーズやS&Pなどの格付け会社も、その後ブラジルを投資適格国と認定し、国際金融資本の提灯を持っている。某日系大銀行も、誤った情報を堂々と流し、まさにそのお先棒を担いでいる。

世界は国際金融資本の「バブル転がし」に翻弄されている。日本はバブルで潰され、続いてITバブル、サブプライ

ムショック、中国住宅バブル、次いでブラジルバブルと、国際金融資本は「バブル転がし」によって、その都度大儲けしてきた。

7. 次なるバブル転がしの先はどこか？→私ならペルー。

最近、BRICsの s が大文字の S になったという。つまりサウスアフリカが新興国に仲間入りしたというのである。国際金融資本が次なる「バブル転がし」の先にサウスアフリカを選定したというわけである。このように公表され衆目が一致したときには、すでに安値買いのチャンスは終了しているということであり、いまさら中小企業がサウスアフリカに押っ取り刀で駆けつけても大儲けはできない。中小企業に残されている金儲けの道は、国際金融の仕掛け人の先回りをして、自ら安値買いを行い、大きな流れを待つことであろう。

私はブラジルからの帰路、ペルーのリマに立ち寄った。ちょうど大統領選挙の直後で、街中にはまだその余韻がくすぶっていた。リマではペルー日本人協会に行き、岐阜県人会の会長さんから移住当時の苦労話をうかがい、ジェットロのリマ所長の石田達也氏から「ペルー経済が堅実に成長している」という話を聞いた。石田所長の話はきわめて理路整然としており、それを聞き終わったとき、私はペルーがまだ国際社会で注目を集めておらず、この国への投資も面白いのではないかと思った。

※上記は、「TACT 経営研究会 ブラジル経済事情視察研修旅行」(6/06～15:総勢11名)の参加報告書である。
以上

日中死生観比較 その1
— 徐福と姥捨て —

1. 徐福

徐福は謎の多い人物である。中国には徐福ゆかりの地が多数存在しているし、日本にも徐福到来の地が数多く残されている。そしてその謎を解くため、日中双方に研究会が組織されており、多くの人が徐福伝説を追いかけている。

司馬遷の「史記」によれば、2300年ほど前、徐福は秦の始皇帝に「東方の三神山に不老不死の霊薬があるので、それを持ち帰り献上する」と具申し、始皇帝の命を受け、3000人の童男童女や多数の職工を引き連れ、大量の食糧や金銀財宝を持って日本へ渡航した。しかしその後、徐福は中国へは帰らず、日本の王となったという。いずれにせよ徐福の日本への渡航目的は「不老不死の霊薬」を手に入れることであり、それは古来、中国人が「不老不死」を強く希求していたということの証左である。「不老不死」つまり個人の「長寿」が、中国人の究極の死生観であったことを示している。

中国の徐福ゆかりの地は、北から順にあげると、遼寧省の綏中、河北省の秦皇島、滄洲、山東省の龍口、琅琊台、江蘇省の連雲港、浙江省の寧波、岱山などにある。その中で、1993年10月には、江蘇省連雲港市贛榆県金山鎮后徐阜(福)村が「徐福の生まれ故郷」として認知され、盛大な「中国徐福会」の成立大会が催された。先日、まず私はその連雲港市にある后徐阜(福)村に足を運んでみた。今後、時間の余裕を見つけ、他の徐福ゆかりの地にも順次訪ねて行きたいと思っている。

私は連雲港の空港から、携帯電話のナビに「后徐阜(福)村 徐福祠」と打ち込んで、その指図に従って車を進めた。1時間ほどで后徐阜(福)村に着いたが、徐福祠はなかなかみつからなかった。なんども地元の人に聞いて、そこに辿り着いた。たしかに門前には徐福祠という看板があり、その由緒が書いてあったが半分剥げており読むことができなかった。また祠自体もみすばらしいもので壁には亀裂が入っていたし、屋根瓦も割れ、そこから雑草が生えていた。しかも門には大きなカギがかけてあった。がっかりして私がしばらくその場に座っていると、どこからか徐福に似た老人が現れて、門を開け中に入れてくれた。祠内も荒れており、雑草がかなりはびこっていた。その老人が口をもぐもぐさせながら、この祠は28年前に建立されたが、5年ほど前に別の場所に新しい徐福廟ができたので、いろいろなものがそちらに移転してしまい、この祠には何も残っていないという。帰り際にお礼を言いながら、その老人に名前を聞くと、「徐福の71代目の子孫、徐広法」とはっきり答えてくれた。



古い資料によると、この徐福祠の周辺に、徐福が生活した家や徐福の渡航船の建造現場、渡航出発地点、霊薬栽培畑などがあるはずであった。周辺を歩いてみると、たしかにそれらは保存されていたが、碑が傾いていたり、壊れかけたりしていた。

次に徐福廟に行くため、その場所を村人に聞くと、そこはすぐにわかった。車で走っていくと、遠くからでもきらびやかな廟の屋根がはっきりわかった。廟の入り口近くには、10mほどの巨大な石造りの徐福像が立っており、その周辺には立派な公園が作られていた。徐福廟は先刻の徐福祠の10倍ほどの広さで、なおかつ豪華であった。その廟の右側には、さらに立派な道観風の建物が建設中であった。まさにそこでは徐福を観光で売りだそうとするこの村の魂胆をありありと見せつけら《連雲港市贛榆県の徐福廟》 れた。



日本の徐福到来の地や徐福に縁のあると地としては、南から順にあげると、

鹿児島県の串木野市・坊津町・屋久島・種子島、宮崎県の宮崎市・延岡市、佐賀県の佐賀市・佐賀郡・山内町・伊万里市・武雄市、福岡県の八女市・築紫野市、高知県の土佐市・須崎市・佐川町、山口県の上関町・豊北町、岡山県の倉敷市、京都府の伊根町、和歌山県の新宮市、三重県の熊野市、愛知県の名古屋市・小坂井町、静岡県清水市、山梨県の富士吉田市・河口湖町・山中湖村、神奈川県藤沢市、東京都の八丈島・北区王子、秋田県の男鹿市、青森県の小泊村、北海道の富良野市などがあげられる。

《 新宮市の徐福公園 》

それぞれの場所には、古くから地元の人たちの手で守られてきた徐福の墓や像などが遺されている。手始めに私は、新宮市と熊野市に行ってみた。



JR 紀勢本線の新宮駅前に降り立つと、すぐ目の前に立派な徐福公園がある。この公園は1994年に完成されたもので、総工費が6億円ほどかったという。日本国内はもとより香港などからの寄付でまかなわれたようである。公園内には徐福像(平成9年建立)や徐福の墓(元文元年:1736年建立)、徐福の重臣7人を祀るという七塚の碑(大正4年建立)、由緒板(平成6年:中国山東省龍口市より寄贈)などがある。また園内では徐福が追い求めた不老不死の霊薬と言われる「天台烏薬」の木が育てられており、この霊薬から作られた健康食品が、売店で売っている。そこには徐福グッズもいろいろと取りそろえてある。この徐福公園の近くに阿賀須神社があり、その境内にも徐福の墓がある。さらにそこから海辺に50mほど行った所に徐福上陸の地と称する碑がある。ちょうどそこにはお椀をふせたようなこじんまりとした綺麗な形の山がある。地元の人はこれを徐福が探し求めた蓬莱山であるという。※なお詳しいことをお知りになりたい方は、和歌山県新宮市徐福一丁目4番24号 (財)新宮徐福協会 TEL0735-23-3333へお問い合わせください。

新宮市からJR 紀勢本線を少し北上すると、三重県熊野市に入る。熊野市の波田須駅の近くに徐福の宮があり、ここにも徐福の墓がある。山の中腹にあるこの宮からは、眼下に広大な太平洋を見渡すことができる。また周辺には棚田が広がっており、それらの景色を楽しみながら山を登っていくと、そこに徐福茶屋がある。そこで休憩させてもらい、徐福の宮とその先に広がる太平洋をながめると、なぜか自分のはるばる中国から渡ってきたような爽快な気分となる。

このような徐福のゆかりの地が、九州から北海道まで全国各地にあることについては、当時、中国から多くの職工が渡来し、各地でその技術を伝授した。それがいわば弘法大師の事績のように、徐福伝説として残ったのではないかな。あるいは徐福の船団は小さな船で日本海横断を試みたわけで、それらが目的を果たすために、難破することを避け、意識的に多くの場所に辿り着いた結果ではないか、などと考えられている。



《熊野市の徐福の宮》

2. 姥捨て

かつて日本には棄老の習慣があった。この棄老つまり姥捨てという言葉は、若者の立場からのもので当事者のものではない。棄てられる当事者は、その習慣を喜んで受け入れており、その意味から考えれば棄老あるいは姥捨てという言葉は適切ではない。今、私の頭の中にはそれを上手く表現する言葉が浮かんでこないが、とりあえず「自己犠牲的自棄」とでも書いておく。この習慣を突き詰めて行くと、「即身成仏」という思想に至るのではないかと私は考える。またこの「即身成仏」こそが日本人の究極の死生観ではないかと思う。

「姥捨て」思想は、深沢七郎の手によって「檜山節考」として著され、広く世に知らされた。またそれは今村昌平監督によって映画化された。私は若いときにその映画を見た。私はその映画のラストシーンが、今でも忘れられない。私はこれが日本の誇る「姥捨て」思想であると思う。私の妄想をからめて、そのラストシーンを下記に描き出しておく。

緒方拳の扮する息子が、坂本スミ子が演ずる老婆を姥捨て山の奥深くに置き去る。そのとき雪がちらつく。緒方が振り返ると、岩の上に端座した坂本は、叱りつけるようなかつ微笑むような顔で、手を振り緒方を追いやる。その坂本の姿は、みじも悲哀を感じさせなかった。むしろ生き仏さまのように見えた。緒方は一目散に家に駆け帰る。家では、すでに坂本が使っていた服や帯を、嫁や娘が着用し、まめまめしく働いている。そこには昨日まであった坂本の存在は、まったくなかった。緒方もなにごとくなかったように、ずっとその生活に溶け込んでいった。

長野県を走る JR 篠の井線に「おばすて」という名の駅がある。この駅に降りると、姨捨(おばすて・うばすて)山を見ることができる。この山の正式名称は冠着山(かむりきやま)で、冠山とも更科山とも称され、古くは小長谷(おはつせ)山とも言われていた。この地が「おばすて」と呼ばれるにあたっては諸説があるが、古称の「おはつせ」がなまって「おばすて」となったという説もある。いずれも「姥捨て(うばすて)」という棄老伝説の出所が、この地であることを裏付ける学説はない。しかし「おばすて」駅近くの長楽寺境内には、俳聖松尾芭蕉の「おもかげや 姨ひとりなく 月の友」という句碑がある。少なくとも、芭蕉の時代には、すでにこの地が「うばすて」の地として有名であったことがわかる。なおこの句からは、同時にこの地が「田毎の月」として、棚田に映る月が美しく見られる場所として、古来、名勝地であったこともわかる。



また、「おばすて」駅に積まれているパンフレットには、故郷の民話として「姨捨山伝説」が載せられており、この地が日本各地にある棄老伝説の地の一つであったことを明示している。それでも地元の人達は、この地が「うばすて」の地としてよりも、「名月の里:姨捨」や、「重要文化的景観:姨捨の棚田」の地として有名になることを望んでいるようである。長楽寺に置いてあった地元の古



老が著した小冊子には、「姥という字は老女を指し、姨という字は母の姉・妹を指している。姥と姨は異なる」と、わざわざ

ざ強調して書いてある。ちなみに広辞苑で「うば」という字句を調べて見ると、「姥・嫗」という漢字で「老女、老婆、おうな」という解説が、「おば」という字句では「老婆、姥」という漢字で、「(おほばの略)年取った女。おうな。ろうば。ばば」という解説が出てくる。また反対に芭蕉の句は、もともとは「ひとり泣く」だったものを、地元の人が「ひとりなく(無く)」に変え、碑に刻んだとも言われている。ともあれ、古来、日本には各地に棄老の風習があった。それは深沢七郎の「檀山節考」や柳田國夫の「遠野物語」にも取り上げられている。歴史上には、「大和物語」(950年ごろ)、「今昔物語集」(1120年ごろ)、世阿弥の謡曲(1363年)でも見受けられる。しかし歴史上に書き残されたものは、棄老を美談としてではなく、棄老の風習を破った親孝行息子を誉めたたえる物語となっている。つまりこれらはすでに親孝行という儒教思想で脚色されたものとなっており、この時代に、棄老の風習が思想的に遺棄されたことがわかる。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
5 月		8.9	15.2	▲1.4	(32.9)	134	▲22.4	▲25.2	▲32.0	▲17.8	25.7	28.0
6 月	7.9	10.7	15.0	▲1.7	35.3	83	▲21.4	▲13.2	▲3.8	▲6.8	28.5	31.9
7 月		10.8	15.2	▲1.8	(32.9)	106	▲23.0	▲14.9	▲21.4	▲35.7	28.4	38.6
8 月		12.3	15.4	▲1.2	(33.0)	157	▲23.4	▲17.0	▲2.05	7.0	28.5	31.6
9 月	8.9	13.9	15.5	▲0.8	(33.4)	129	▲15.2	▲3.5	10.6	18.9	29.3	31.7
10 月		16.1	16.2	▲0.5	(33.1)	240	▲13.8	▲6.4	▲6.2	5.7	29.5	31.7
11 月		19.2	15.8	0.6	(32.1)	191	▲1.2	26.7	10.0	32.0	29.6	34.8
12 月	10.7	18.5	17.5	1.9	(30.5)	184	17.7	55.9	9.7	-44.6	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
1 月				1.5		142	21.0	85.6	24.7	7.8	26.0	29.3
2 月		(20.7)	(17.9)	2.6	(26.6)	76	45.7	44.7	2.5	1.1	25.5	27.2
3 月	11.9	18.1	18.0	2.4	26.3	▲72	24.2	66.4	28.1	12.1	22.5	21.8
4 月		17.8	18.5	2.8	25.4	17	30.4	50.1	21.3	24.7	21.5	22.0
5 月		16.5	18.7	3.1	25.4	195	48.4	48.9	29.3	27.5	21.0	21.5
6 月	10.3	13.7	18.3	2.9	24.9	200	43.9	34.6	8.3	39.6	18.5	18.2
7 月		13.4	17.9	3.3	22.3	287	38.0	23.2	12.8	29.2	17.6	18.4
8 月		13.9	18.4	3.5	23.9	200	34.3	35.5	21.2	1.4	19.2	18.6
9 月	9.6	13.3	18.8	3.6	23.2	169	25.1	24.4	12.2	6.1	19.0	18.5
10 月		13.1	18.6	4.4	23.7	271	22.8	25.4	8.7	7.9	19.3	19.3
11 月		13.3	18.7	5.1	29.1	229	34.9	37.9	28.1	38.2	19.5	19.8
12 月	9.8	13.5	19.1	4.6	20.4	131	17.9	25.6	9.2	-13.3	19.7	19.9
2011 年												
1 月				4.9	23.7	65	37.7	51.4	16.6	11.4	17.3	16.9
2 月		14.9	11.6	4.9	—	-73	2.3	19.7	-10.9	32.2	15.7	16.2
3 月	9.7	14.8	17.4	5.4	31.2	1	35.8	27.4	10.5	32.9	16.6	16.2
4 月		13.4	17.1	5.3	37.2	114	29.8	22.0	8.2	15.2	15.4	15.8
5 月		13.3	16.9	5.5	33.6	130	19.3	28.4	12.1	13.4	15.1	15.4

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、() 内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家統計局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。